

言語活動を通じた 思考力・表現力の育成

相馬市立磯部中学校 現職教育部



本校生徒の実態

- ① 素直で明るくのびのびしており、与えられた課題に黙々と取り組む。
- ② 協調性があり、決まりを守り、授業に真剣に取り組む。



- ③ 知識・技能を活用する力が弱く、自分から課題を見付けるのが苦手。
- ④ 自分から進んで家庭学習に取り組む習慣形成がされていない。
- ⑤ 幼稚園から少人数の同じメンバーのため、お互いに考えていることがある程度予測できるので、言語による意見交流が少ない。



思考力・判断力・表現力を育む基盤

基礎的・基本的な知識・技能の習得



知識・技能を活用する学習活動の充実



言語に関する関心・理解の深化と、
言語環境の整備



言語活動を充実させるためには

- ① 表現
- ② 伝達
- ③ 説明・活用
- ④ 論述
- ⑤ 評価・改善
- ⑥ 伝え合い・発展



等の具体的活動を指導過程に位置づける。

そこで今年度は、焦点化を図って...

「授業改善ハンドブック

新・授業の窓～『授業をつくる16の視点』

を参考にして、次の4点に着目

- ① 言語活動が位置づけられた指導計画
・単元計画
- ② 学びがいのある魅力的な学習課題
- ③ 教師によるコーディネート
- ④ 親和的な学級集団づくり



研究主題

言語活動を通じた思考力・表現力の育成

研究仮説

課題追究の場面において

話し合いによる意見交流の場を設定し、

そこで深まった自分の考えを

ICT機器を活用して発表させることによって、
自分の考えを伝え合うことができるだろう。

なぜ、課題追究の場面か

知識・技能を活用する学習活動を充実させるため



なぜ、話し合いによる意見交流か

少人数の本校で、より多くの意見に触れさせることで、思考・判断の場面を設定するため。



なぜ、ICT機器を活用しての発表か

ICT機器を活用する学習活動を充実させるため

→ ICT機器の活用によって

- ① 発表の準備、手順、方法等の流れが
つかみやすくなる。
- ② 発表への抵抗感が減少する。



なぜ、自分の考えを伝え合うのか

思考を深め、さらなる学習活動への発展へと導くため



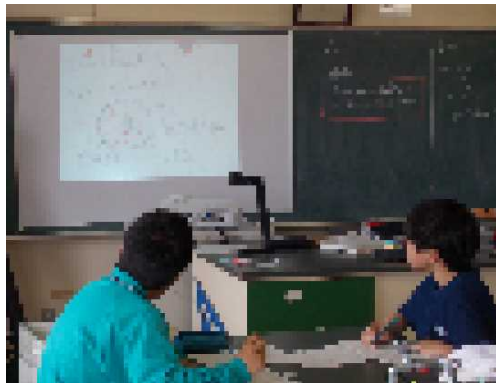
具体的には

言語活動、ICT機器の活用を、指導過程に取り入れた授業を意識して行い、生徒の変容のわかる資料を蓄積していく。



国語科では

生徒がまとめた考えを、音声による発表に加えて書画カメラで提示して、視覚的にも自分の考えと比較しやすい状況を構築した。



数学科では

自分の解法を友達に伝達・比較して、考えを広げる場面を多く設定した。



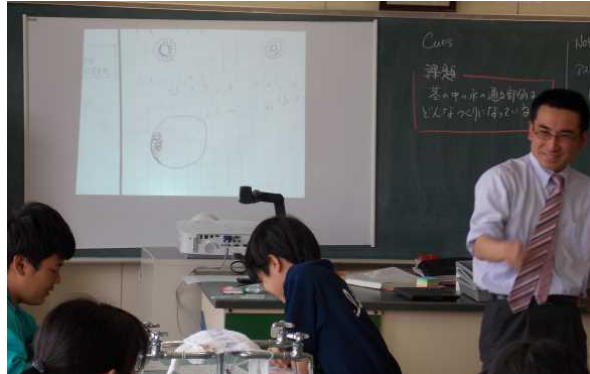
英語科では

言語活動に取り組みやすくするための意欲の向上を図るとともに、言語環境の整備に努めた。



理科では

ノートやワークシートのスケッチを提示して、まとめ方を示したり、友達の考えと比較して、さらに検討を加える場面を設定した。



保健体育科では

自分たちのダンスをタブレット型端末で動画撮影し、それを見ながら改善点についてグループで協議する場面を設定した。



教育活動に関するアンケート5段階評価の
平均値の向上

「疑問や課題を自ら見つけて、
積極的に学ぼうとしている」

H25 3.7 → H26 **3.9**

「話し合ったり発表したりする機会が
授業に設定されている」

H25 4.0 → H26 **4.2**



教育活動に関するアンケート5段階評価の
平均値の向上

「ICT機器を効果的に活用している」

H25 4.0 → H26 **4.1**

「わかった、できた」と授業中に
感じることもある

H25 3.7 → H26 **4.5**



まとめとして

- ▶ 課題追究の段階に生徒が意見交流しやすい話し合いの場面を意図的に設定することにより、生徒一人一人が考えを深めていく様子が見られた。
- ▶ 生徒の考えをICT機器によって提示して、比較・検討させたり、全体で考えたりしていく中で、生徒の考えの深まりが見られた。



課題は

- ▶ 言語活動の充実のためには、さまざまな学習形態の特徴を十分に把握して、工夫を加えていくことが必要である。
- ▶ 考えを伝え合い、発展させていくためには、相手の意見を批判したり、反論したりすることも必要である。建設的に批判を加えられる力を身に付けさせていきたい。

